irori

発行
奥州市 地域づくり推進課
奥州市江刺大通り１番８号
0197-34-1618(直通)

～団体の活動紹介～

おはなしキャラバンすくすく

おはなしキャラバンすくすくは、江刺地域内の幼稚園児等に、笑顔を届けようと紙芝居や人形劇などの公演を行っている団体です。

団体を立ち上げた契機は、旧岩谷堂公民館が、岩谷堂幼稚園に「婦人ボランティア講座」の受講を呼びかけたことでした。この講座を保護者役員などが受講し、花巻にある「花巻おはなしキャラバン」の公演を鑑賞するなどして、ボランティアの心構えやノウハウを学びました。受講修了後、学んだ成果を発表しようと、同幼稚園のクリスマス会で公演を行いました。演目は「孫悟空」や「ありとキリギリス」、「赤ずきんちゃん」。着ぐるみやお面をつけて、指人形で披露するなどして、工夫を凝らしながら発表しました。本格的な出し物に子どもたちは大喜びで、拍手が鳴りやみませんでした。この公演を機に、ほかの幼稚園や保育所などから依頼されるようになり、団体を立ち上げて活動していくことが必要だと感じ、1980 年に「おはなしキャラバンすくすく」を設立しました。

公演は、ペープサート（※）や影絵、紙芝居、人形劇などのキャラバン公演を江刺地域内の幼稚園や保育所を中心に公演しています。紙芝居や人形劇などの演目は、メンバーが題材を持ち寄り皆で検討を重ね、子どもたちが喜びそうなものを選んで決めています。舞台は制作から上演まで全て手作りです。劇中に入れる音楽や歌も既存曲をアレンジしたオリジナルの曲にしています。さらに、ただ鑑賞させるだけではなく、手を叩いたり、声をかけあうなど、聞き手参加型にすることで物語の世界や劇の楽しさを共有できるようにしています。このようにメンバー皆が知恵を出し合い、子どもたちが自分たちの公演を楽しみにしている姿を思い浮かべながら、一つひとつ丁寧に舞台を作り上げます。メンバーが少なく活動が大変なときもありましたが、周囲に支えられ、40 年以上も活動を継続してきました。現在は、10 人のメンバーで元気に明るく楽しみながら活動しています。

現会長の及川典子さんは「子どもたちが笑顔になってもらえることは、とても嬉しいことです。子どもたちからたくさんパワーをもらうとまた来年も公演したいという気持ちになります」と笑顔で語ります。豊かな感性や想像力の発達を促す一助になるよう、また夢や喜びを与えられるよう、今後も活動を継続していきます。

※ペープサートとは、ペーパーパペットシアター（paper puppet theater）を短縮した言葉で、幼児向けの紙人形のことです。

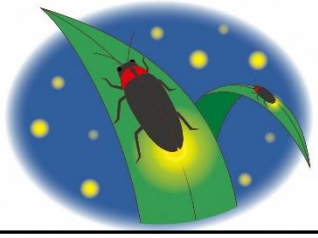
人形劇「赤ずきんちゃん」

夢中になって鑑賞している子どもたち

おはなしキャラバンすくすくの皆さん。子どもに負けないくらいの明るさと笑顔で頑張っています。

●団体名　おはなしキャラバンすくすく
●設　立　1980 年　　●代　表　及川　典子
●趣　旨　地域内の幼稚園児等に紙芝居や人形劇等を通じて、青少年の健全育成を図る。

～団体の活動紹介～



大森ホタルの会

大森ホタルの会は、衣川の大森地区に生息しているホタルの生態や生息する種類、環境の大切さなどを伝えている団体です。

大森地区は、自然豊かな中山間地域で、山々に囲まれた集落です。この地区に暮らす現会長の矢崎木綿子（ゆうこ）さんは、大森地区の自然環境を守り続けていきたいと常々思っていましたが、現奥州市南股地区センター塚本康雄センター長から「落合橋にホタルがたくさん飛んでいるよ」という話を聞き、ホタルがどのくらい生息しているのか調べてみることにしました。矢崎さんは、淡い光を放ちながら飛び交う多数のホタルを見て、現代ではなかなか見ることができないホタルが生息できる環境を保全する活動を行いたいと決意し、2007 年同会を発足しました。

活動は、主にホタルガイドによる啓蒙活動を行っています。ホタルの生息場所や種類、ホタルを観察するマナーなどを地区内外から観察に訪れた人たちに伝えています。ホタルは気候等によって出現する場所が異なるので、会員が一番多くホタルが見られる場所に案内します。また、地元の小学校から依頼され、小学生を対象に、ホタルの学校（観察会）を年２回実施しています。小学生たちは、ガイドの話に熱心に耳を傾け、ホタルを見ると「わぁ！すごい！」と言いながら初夏にしか観察することができないホタルとのひと時を楽しんでいました。

また、毎年、７月第１土曜日には「七夕会」を実施しています。七夕会では、地区内の子どもから大人までが集まって願いを書いた短冊などを飾り付けるなど、住民の団欒する機会となっており、世代間交流にも一役買っています。短冊を飾り付けたあとには、皆でホタルを観察に行き、自然の豊かさを実感するとともに、ホタルが生息できる環境づくりの大切さを学びます。

同地区内には、中山間地域等直接支払い制度を活用した別組織で「大森百景」という里山の自然環境保護を目的としたプロジェクトチームがあり、ホタルの調査、棲家となる水路作りを行っていますが、その活動に同会のメンバーも中心となって携わっています。ホタルの調査は、同地区全域を９つに分けて、ゲンジボタルやヘイケボタル、ヒメボタルが出現する６月中旬から７月中旬まで会員が毎晩、何匹飛んでいるか数えているもので、15 年以上継続して行ってきました。これまで調査してきた中で最も多いときは1,300匹ほどのホタルが飛んでいましたが、年々ホタルは減少しています。同会は、これ以上ホタルが減少しないよう、一度に三種類のホタルが見られるこの貴重な大森地区の景観と、ホタルの光を見られる風景を後世へ残せるように力を注いでいきます。

会長の矢崎さんは「ホタルを観察するときは、車のライトや電灯など明るく照らしすぎないようにしてほしい。ホタルを優しく見守ってほしい」と思いを込めて語りました。

ホタルが見られた落合橋付近

ホタルは光の信号を出し、オスとメスがよびあいます。

●団体名　大森ホタルの会
●代　表　矢崎　木綿子　　●設　立　2007 年
●趣　旨　里山におけるホタルの生息地の環境保全

ホタルのガイドブックを作成し、ホタルの生態や環境を伝えています。

市民活動を対象とした助成金や、団体支援に関するセミナー等の情報は、奥州市地域づくり推進課フェイスブックで随時、更新しています。
検索は　https://www.facebook.com/oshu.shiminkatudo/

編集後記　連日、猛暑が続いています。また、暑さを強調するように蝉の大合唱が響き渡っていますね。今年は蝉が例年より多く発生しているように感じます。